# 令和８年度第２回　静岡市梅ケ島ワイン生産地化検討会　会議録

１　日　　時　　令和８年９月 25 日（金）　14 時 00 分～15 時 30 分

２　場　　所　　静岡市役所　新館８階　市長公室

３　出 席 者　　【委員】
神成委員、種本委員、川島委員、柏原委員（オンライン）、小泉委員、島津委員
【静岡市】
難波市長
（事務局）
環境局：佐藤森林経営統括監
中山間地振興課：岡本課長、関本課長補佐、上治副主幹、渡辺主査
社会共有資産利活用推進課：本多係長、磯部主査

４　傍 聴 者　　０人

５　議　　題　　梅ケ島ワイン生産地化に向けた今後の進め方について

６　会議内容

（１）　開会

（２）　あいさつ（難波市長）

（３）　第１回検討会以降の検討状況について

事務局から資料に基づき説明を実施。（資料１）

（４）　検討事項「梅ケ島ワイン生産地化に向けた今後の事業の進め方について」

事務局から資料に基づき説明を実施。（資料２及び３）

―意見・質問―

・（小泉委員）地元住民から事業内容について問い合わせを受けているが、詳細を答えられていない。そんな中、今年はお茶の状況が良く、耕作放棄地の利用について東京の事業者から問い合わせもあり、地域住民はどのように対応するか迷っている。この事業の方向性を地域にも見えるようにしてもらいたい。

→（市長・事務局）検討している内容を整理して、地元に説明をする。
→（種本委員）本事業の原点は「茶の耕作放棄地の増加」を何とかしたいというものであったと思うが、茶の市況回復により耕作が継続できるとき、梅ケ島の方たちはこの事業をやってほしいと思うのか。本事業は継続できるのか。
→（市長・事務局）
この事業は、農業振興にとどまらず地域振興を目的としている。新たな産業の選択肢を作ることが本質であるので、小規模から着実に進めていく。

・（市長・事務局）醸造所として旧梅ケ島小中学校調理室等の改修を候補として検討する。設計段階から民間事業者を関与させることで、投資効果を高める。また、事業者公募は栽培リスクの大きさを考慮し、「ブドウ栽培」と「ワイン醸造」を切り離して募集できる柔軟な条件設定を検討したい。
→（川島委員）市が試験栽培を先行して引き受け、地域に適した栽培技術や苗木ノウハウを確立したうえで、ビジネスモデルを提示できれば、民間事業者の参入、地域農家への技術還元や雇用創出にもつながる。

・（川島委員）梅ケ島は年間降水量が非常に多いことが、ブドウ栽培の最大の課題となる。試験栽培では品種の選定、圃場の設計、降雨対策等について徹底的に検証する必要がある。また、土壌や気象等のデータ蓄積については早期に開始すべき。
→（神成会長）将来の労働力不足を見据え、圃場は設計段階から機械化を前提としたレイアウトを検討すべきである。

・（種本委員）ワイナリーやブドウ畑によって多くの正規雇用が期待できるほどワインは儲かるものではないが、それとは別にワインを基盤に食を中心とした宿泊なども含む産業が発展していくというイメージになれば、雇用の増加や地域の活性化になる。
・（柏原委員）日本のワイナリーの多くが赤字と言われている厳しい現状で、新規参入するということは、ワインを作ったという実績だけではなく、ワイナリーを黒字化することが求められる。市が様々な試みによって有望なブドウやワインを実証する点は有益だが、土壌や気候に適した品種選定と市場で売れるワインになるかの視点を持つ必要がある。情熱と冷静な判断をもって、地域に実装するまでをきちんと設計することが重要。

→（市長）本事業の推進には地域に新しいワイン文化を創出することへの情熱とビジョンが不可欠。情熱をもって、新しいワインの産地を作っていくプロジェクトとして進めていく。